

「 J A 農業施設での農福連携作業を通じて、農家への労働力支援へとつなげる体制づくりを！ 」
農家の労働力不足に対応する多様な形態の労働力確保

事業実施主体構成員

営農部営農企画課（無料職業紹介所担当1名）（農福連携事業担1名当）
J A 支所（22支所）・営農指導センター（11センター）

実績値（目標値）

①労働力受入担い手農家数： 8 3 戸（ 6 5 戸）

令和 4 年度取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

当農業協同組合は、長野県の中信地区 3 市 5 村（松本市・塩尻市・安曇野市・麻績村・生坂村・山形村・朝日村・筑北村）をエリアとしており、多種多品目の農畜産物を生産しています。そのため、各地域により農家の労働条件が違ふこと、管内農家の高齢化をはじめ新型コロナウイルスによる働き方の変化で農家の労働力不足は年々深刻化している。管内正組合員16,832戸 出荷農家約6,500戸
農家調査

- ・営農生活懇談会 49地区 671人
- ・営農相談会 24地区 155人 計 延べ826戸

労働力不足農家から募集内容・求人票の提出、農福連携・デイワーク（農作業アプリ）・ラインワークスを活用し労働力の補完希望があるか聞き取り調査等々を実施

イ 労働力の確保・育成（情報発信等）

- ・農福連携に取り組みたい福祉事業者を参集し4月8日（金）に説明会実施。
参加事業所8事業所。今回参加していない6事業所についても、ヒアリングを行い、作業に対応可能な障がい者は、各事業所4名～8名（約60名）、長野県とセルフセンター協議会で実施する「おためしノウフク」と連携し、JA施設で実施（トレーナーとしての作業補助員を採用）
- ・農作業アルバイトの集団面接会を3回実施。
参加求職者 1回目：13名、2回目：130名、3回目：17名
参加農家 1回目：7名、2回目44名、3回目：7名
実施回数を増加したことから、職業紹介責任者も資格を取得し増員した。

今年度の取組み内容	
ウ	労働力等のマッチング及びデータベース化
管内農家で労働力支援希望のあった83戸の農家のデータと、農作業アルバイト求職者130名の情報をデータ整備し、マッチングを実施。希望人数に達しない農家もあったが、すべての農家においてマッチングを実施。これまで単年度の使用としていたが、統一データとして、毎年新たな情報へ更新していくことでデータ作成労力を削減。	
エ	農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等）
・各地域で（支所）営農相談会を実施し、労働力・労務管理や働き方改革をはじめとする農業経営について農家と個別相談を実施した。 開催回数：24会場 参加農家155人 ・労働力支援および働き方改革の説明会開催（2月28日）	
オ	他産地・他産業との連携による労働力確保

本事業取組みにおける成果項目

労働力確保の段階的な提案

面接会等での確保が難しくなっている
(労働人口減・求職者の働く条件等が変化)ため、段階的・波動的な労働力の提案が必要に。

・・・農作業アプリ・農福連携へ繋げていく

農福連携参加福祉事業所の地道な拡大

農福連携に取り組む福祉事業所の急増は難しい状況であるため、農業の状況説明や推進を行い、継続した活動を地道に行うことが重要

募集媒体の活用

求職者についても、インターネットを活用しない方の数も一定数あることが分かり、新聞広告も継続して活用。

新聞広告での応募 : 32件

WEBサイトからの応募 : 65件

次年度以降の取組み内容

農家へ向けて・・・

- ・働き方の変化について説明する機会の増設
- ・デイワークアプリの活用周知
- ・農福連携への理解醸成
- ・当JAオリジナルアプリ「ハイランドアプリ」でのマッチングページの制作

福祉事業所へ向けて・・・

- ・長野県労働力支援センター×デイワークで農福アプリをテストスタート。福祉事業所からも農作業PRができる機会を増やす

求職者へ向けて・・・

- ・見つけやすい媒体でのPR
新聞紙面、WEBサイト、
当JA独自「ハイランドアプリ」でのマッチングの活用